

## 富岡製糸場見学旅行

10月23日(金) 場所 富岡製糸場

## 概要

民主党政権の時、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」で、初代群馬県令として赴任した楢取素彦が絹産業の支援を決断するシーンをテレビで見た丁度1週間後に、タイミングよく世界遺産「富岡製糸場」を見学することができました。

高給で遇せられたフランス人技師の指導のもと、短期間に建設し、その経営に尽力した明治の人々の努力に頭が下がる思いがしました。



ガイドツアーに参加し、工場建物の工夫された技術、すなわち、建物中央に柱のない広い空間を確保する「トラス構造」、採光のための多くの窓ガラス、屋根の上の蒸気抜きの越屋根など、また、当初のフランス式の操糸器から国産の自動操糸機への革新、工女（女工とは言わない）の育成システム（資格制度と給料、終業後の習い事など）、診療所・宿舎などの手厚い福利厚生、これらが日本の製糸工場のモデルとして全国に広がっていったことがよく理解できました。

工場建設工事に際しては、柱に煉瓦を積み上げて壁をつくる「木骨煉瓦造」工法、そこに使用された煉瓦は日本の瓦職人が窯を築いて作ったという、日本のものづくりの基盤がしっかりしていたことを再認識しました。

明治時代の日本の産業革命遺産が各地でいろいろ話題になっているが、江戸時代からの職人の技の蓄積、寺子屋での初等教育、藩校での中等教育などのベースがあつてのこととしました。

よい蚕の卵（蚕種）を作るために「清涼育」を完成した「田島弥平旧宅」、養蚕教育機関であった「高山社跡」、自然の冷気を利用した蚕種貯蔵施設「荒船風穴」など明治の産業革命を実現した群馬の絹産業の施設とその物語が、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」として登録されています。（日本の世界遺産参照）機会を見つけて全部の施設を見学してみたいものだ。世界遺産に指定されたことで、富岡製糸場は団体客や小学生の見学で賑わっていました。

明治天皇の皇后さまが蚕の繭から糸を紡ぐ作業をされ、その伝統が現在も美智子皇后さまに引き継がれているという。天皇皇后両陛下が召し上がられたという「カイコの繭の形をした最中」をお土産にしました。



技術総合支援グループの活動として、日本のものづくりの遺産を調査し、若者にその歴史と伝統を伝えることも検討しようと話し合った。

## —参加者の一言—

- ・女工”と”工女”の違いを辞書で確認しましたが、結論は理解不能でした。
- ・日本の産業の夜明けの星でしたが、同時に女工の最初の華舞台でした。大竹しのぶで一躍有名になった「女工哀史」ですが、少なくとも富岡製糸場の女工は今日の宝塚のスター並みの極めて高い位置にあったとのお話でした。
- ・無償の診断施設があり、夜は勉学のできる夜間の学校もありました。昼働きよる学ぶ施設がすでに明治の初期に存在したことを知ることができ、開発途上国に技術支援をしている当方には、改めて日本の教育制度の素晴らしさを知覚した次第です。

